

第 107 回 番組審議会 議事録

開催日時：2020 年 2 月 4 日（火）15：00～16：00

開催場所：本社役員会議室

1) 出席委員（総数 7 名：出席数 6 名、欠席数 1 名）

小島香代子／中野洋介／加藤陽介／塚本明子／弓場美奈／近藤慎一

2) 審議番組の内容

番組タイトル 『ボクらの時代』

パーソナリティ 行天貴之

放送日時 2020 年 1 月 1 日（火）11:00～11:55

番組概要

同世代の豊田に関わる 3 人がざっくばらんに食・そして地域について話すインタビュー番組。

3) 審議の内容

【小島委員】

- ・一言で言うと「良い番組」。
- ・お正月番組にふさわしく、「夢」や「チャレンジ」というキーワードを基にして、豊田の食にまつわるお話を展開している。
- ・お二人としっかりと時間をかけてコミュニケーションをした上でのトーク番組であったので、お互いに信頼関係があるように感じられた。それに加え、内容もとても良かった。
- ・オーガニックパンクの話で、無農薬で市場に出せるものは大変難しいが、大好きな消防士の仕事を辞めてまでもチャレンジする甲斐のあることをしている林さんのお話と、豊田市には大きな企業があるから、あまりクリエイティビティと選択肢が少ないと感じており、多様性に欠ける部分があるのではないのか。三河はモノづくりにはとても良い所だが、これからはクリエイティビティや多様性が必要なので、クリエイティビティをこれから発信していくところを作りたいという潤井さんのお話は聴いていて元気をもらえた。
- ・行天さんも「番組を通じてリスナーの方々に何かを感じてもらいたい」と言っていて、その趣旨は成功したのではないのかと思う。
- ・行天さんはあまり器用な人でないと思うが、真面目に 1 本の番組作りに取り組んでいる姿はよく伝わってくる。
- ・この番組を通してリスナーに「こんな人がいるんだ」ということを知っていた

だけなので、この番組だけで終わらせるのではなく、何か次に繋がるようにして欲しい。

【中野委員】

- ・町では「WE LOVE とよた」という言葉で取り組みをしており、分野も多岐に渡っている中で、お二人の取り組み自体を郷土に対するまちづくりや人の繋がりの面で見ると「WE LOVE とよた」にも繋がっているのではないのかなと思う。
- ・元気な人の紹介は、前向きなまちづくりに対するイメージにも繋がっていくものであると思った。
- ・お二人の客観的な凄さというのをもう少し説明してあげるところがあると、さらに話が入ってくるのではないのかなと思った。

【加藤委員】

- ・行天さんは尺も組み立て方も上手で、番組全体としては良い番組だと思った。
- ・最初の方で何故このお二人をゲストの呼んだのかという背景が見えなかったので、情報はあがるが、どこか正体不明な印象が残ってしまった。
- ・豊田市のお話が出始めると地元の話で盛り上がり、そういった話題で盛り上がるのはコミュニティ放送の面白いところだなということを改めて感じた。
- ・行天さんは始めの方からお二人のことを「熱い人、熱い人」という説明をしていたが、前半その熱さが伝わってこなくて、豊田市の抹茶のお話以降からお二人の地元に対する熱さが凄く伝わってきて、ようやく「熱い人たちなんだな」という事が分かるようになったので、行天さんが「熱い人、熱い人」と言っていたのが空回りしている印象があった。
- ・豊田市の話でも、行天さんは「豊田・みよしの皆さまに」と必ずセットで付けてくださるので、流石だなと思った。

【大畑委員】

○オープニング

一人のトークではわからなかったことですが、トーク回しがとても上手だと思いました。ゲストの方々がとても緊張しているのがリスナーにも伝わってきました。しかし、行天さんはその緊張感に引きずられることなくパーソナリティを務められていて感心しました。とても良いと思います。

○フリー

林さんが話をされているときに、行天さんが相槌をうっているのがとても良いと思いました。また、適宜「どこにいたのですか？」など、具体性がかけるトークを補うことで、わかりやすいトークを誘導していたことがよいと思いました。「オーガニックパンク」というリスナーが聞きたいワードをピックアップしていたのが良かったです。話が聞けてスッキリしました。

残念だったことは「変態」や「やりたい」などの言葉選びは昼間の放送には似つかわしくないとも思いました。

○フリー

ゲストが話しやすいように、具体例を示して話を振ったり、YES or NO の 2 択にして話を振るなどしてスムーズな番組づくりをしていることがすごいと思いました。西尾市が抹茶の生産量が日本一位だという情報は地元の人が喜ぶポイントだと思います。

後半は全体的に話が重くなってしまっていたと思います。もし正月にこの放送を聞いていたら、チャンネルを変えていたと思います。前半と比較すると笑い声が少ないと思いました。重い話でも話すテンポが一緒であったため、間延びした感じがしました。明るい話や暗い話で、話し方にメリハリをもう少しつけていただけると良いと思いました。

○エンディング

行天さんの話を聞いていて今回は不完全燃焼なんだということが伝わってきました。「もっとゲストから話題を引き出せて、もっと面白く話せた！」という気持ち伝わってきました。とても向上心があるということが伝わってきました。

最後に全体を通じて、豊田という地元でフューチャーした番組はとても面白いと思いました。行天さんのトーク回しがとても上手であるということもわかりました。番組の途中、飲み物のトークでビールのお話をされていました。行天さんが「ビールが大好き」という事はよく伝わりましたが、もっと珈琲の話題を深めても良かったのではないかと思います。ゲストに合わせた下調べをされていると思いますが、次回は得意分野以外でもどのぐらい話が広げられるか聞きたいと思いました。

【塚本委員】

・行天さんのパーソナリティとしての仕切りはテンポが良く、聴きやすい感じはいつも受けている。

・番組ゲストについての説明の中で、以前にお会いしたエピソードを交えてお話されており、それに加え、自己紹介という形をとっていたので、これから始めるトークがどのような内容になるのか多少の方向性が示されていたことが、全然知らない林さんや潤井さんの導入にもなって良かったかなと思う。

・お正月のこのような時間に堅いとは言いませんが、正統派な内容を放送することはリスナー側から見て大丈夫なのかなと考えていたが、放送の立場としてこのような話題を投げていくことは聴く人にとって仕切りができて良かったと感じた。

・豊田市は少しずつ団体活動をさせてもらうようになったが、若い方が個人で頑張っている姿を見て行天さんが熱くなるのも無理ないなと思った。

・局でもそういう場を持たせているというところが良いと思った。

・豊田市の抹茶がこれだけ凄いものだとすることを知らしめていくことが、今後の若い人たちの活動にも繋がるのではないかなと思った。

・カフェがどこにオープンするのか皆さん具体的に知らない状態であったが、その場所のご紹介があったのは良かった。

【弓場委員】

・行天さんの声が個人的に好きで、ラジオを聴いていてこの方が一番好きだなと感じていた。

・内容はざっくばらんにトークしているところが、凄く楽しかった。

・ゲストの2人を含め3人で賑やかな会話が弾んでおり、リスナーにもその楽しさが伝わったのではないかなと思った。

・是非この内容ならシリーズ化して欲しいと思った。

・「WE LOVE とよた」の事務局側としては、このような活動をしている方々をどんどん取り上げて欲しい。

・細沼さんはかなり前から気になっている人で、インスタグラムを見ていただくと分かるが、とてもオシャレな方で言葉なども参考になるところがあるので、是非取り入れて欲しい。

・行天さんに頑張ってもらいたいのは、二人の良さが凄く熱いというのは感じたが、もう少し引き出せたのではないかなと思う。

・時間が少なかったことやゲストの方が緊張されていたということもありますが、緊張されないような雰囲気作りから番組を作っていくことが必要なのではないかなと感じた。

- ・個人的な感想ではあるが、今までの中で一番好きな番組であったと思った。

【近藤委員】

・特別編成企画ということで、豊田市内の若いエネルギーを持った地域の実業家の方を取り上げたという点は素晴らしい。聴いていて面白かった。

・行天さんの喋りや構成、進行に関しては特に言うことはない。

・この地域の特徴である大手自動車メーカーの町、また、その関連産業の恩恵を受けた仕事をして収入を得ている人が多い中で、個人実業家というリスクを背負いながら、自分の情熱を燃やしてやろうとしている人たちも大手自動車メーカーの町にいらっしゃるはずであり、それを取り上げたということで、元気や希望を得た感じがした。

・今、小学生になりたい職業を聞くと、「YouTuber」と答えるような時代ではあるが、昔のように、良い大学を出て大企業に入社すれば人生安泰かと言われるば、そうではないという空気を皆さん察している中で、20代、30代の方々には「まだやれるんじゃないか」、60代以上の方々には「若い人たちには負けとれんな」という背中を押されるような感覚でこのラジオを聴いてもらえ、事故責任において行動する勇気と希望を伝えるという良さが感じられる企画で情報として良かった。

以上